Follicular Porocarcinoma

Follicular porocarcinoma の存在の可能性

木下 敬介*

Summary

左鼻翼部の径12mmの黒色腫瘍で、病理組織像では、basaloid cell と squamoid cell の増殖、多数の squamous eddies および pigment blockade melanocytes などがみられる early invasive squamous cell carcinoma の1例（80歳，♀），および invasion に関してはそれより前段階に相当すると思われる1例（51歳，♂）を経験した。これらはその病理組織学的特徴より follicular poroma の悪性化例に相当する症例ではないかと考えられた。

緒 言

Follicular poroma あるいは follicular poroepithelioma の症例報告はあるが、これらの癌化例に相当する症例の報告は de Vries (1967年)¹⁾の報告した1例を除いて、ほかにはないように思われる。

臨床的に毛包性腫瘍が疑われ、組織構築が follicular poroma とよく類似した early invasive squamous cell carcinoma の1例、および invasion に関してはそれより前段階に相当すると思われる1例を経験したので、follicular poroma の組織構築と比較しながら、follicular poroma の癌化例、すなわち follicular porocarcinoma の存在の可能性について検討した。

症 例

症例1：80歳，女性

初 診：昭和61年11月12日

家族歴，既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：約20日前，左鼻翼部に腫瘍があることに気づいたという。

現 症：左鼻翼の上方に径12mmの黒褐色調の腫瘍があり，辺縁が隆起し，中央がやや陥凹して一部に黒い角栓様の角化物質をつけている（図1）。

病理組織学的所見：腫瘍塊は，その約3分の1が皮表より突出しており，3分の2が真皮内に増殖している（図2）。Basaloid cell と squamoid cell が増殖して，一見，脳回転状の構築を呈している（図3）。これらに混在して多数の squamous eddies および pigment blockade melanocytes の見られるのが特徴的である（図4）。腫瘍巢の下床では真皮内に浸潤している部分がみられ（図5），異型細胞には明らかに角化傾向を示すものが認められる（図6）。PAS 染色では，腫瘍巢全体的に PAS 陽性所見に乏しい。中心部の squamoid cell の一部に陽性所見をみるのみで，basaloid cell や異型性を示す細胞には陰性である。

* Keisuke KINOSHITA：木下皮膚科医院（長門市）

図 1. 症例 1 臨床像

図 2. 症例 1 組織像の全体像

図 3. 症例 1 組織像の弱拡大像

図 4. 症例 1 組織像 多数の squamous eddies と pigment blockade melanocytes

図 5. 症例 1 組織像
真皮への異型細胞の浸潤所見

図 6. 症例 1 組織像 (図 5 の一部の強拡大)
真皮内に浸潤した異型細胞は角化傾向を示す

治療および経過：腫瘍辺縁より約 3 mm 離してこれを摘出し、欠損部を advancement flap による局所皮弁で覆った。約 3 年 9 ヶ月後現在、再発がなく生存している。

症 例 2：51 歳，男性

初 診：昭和 62 年 1 月 28 日

家族歴，既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：約 6 ヶ月前，前額部に黒色小腫瘍が生じ，次第に増大してきた。

現 症：前額右側に径 8 mm の黒色腫瘍があり，中央がやや陥凹して黒い角栓様の角化物質をつけている（図 7）。

病理組織学的所見：腫瘍巢の断面は西洋梨型を呈しており，全体の約半分が表皮より上に突出している。Basaloid cell と squamoid cell が

増殖して，脳回転状の構築を呈している（図 8）。多数の squamous eddies および pigment blockade melanocyte が混在しており（図 9），細胞異型性や多くの mitosis も認められる（図 10）。一部に真皮内への浸潤が認められる部もあるが，症例 1 ほどその浸潤は強くない。PAS 染色では，腫瘍巢の中心部の squamoid cell は PAS でよく染まっているが，basaloid cell は PAS 陽性所見に乏しい。

治療および経過：腫瘍より 2 mm 離してこれを摘出し，欠損部を一次縫縮した。3 年 7 ヶ月後現在，再発はない。

図 7. 症例 2 臨床像

図 8. 症例 2 組織像の全体像

図 9. 症例 2 組織像 多数の squamous eddies と pigment blockade melanocytes

図 10. 症例 2 組織像 部分的に異型細胞の増殖や多数の mitosis が認められる

考 案

Follicular poroma は一般に顔面に好発する疣贅様の小腫瘍で、必ずしも特徴的な臨床像を呈しないとされているが、その病理組織像は、basaloid cell および squamoid cell の両型細胞の増殖、多数の squamous eddies の存在、しばしば pigment blockade melanocyte の共生がみられることなどが特徴とされており、その病理組織学的特徴より毛包漏斗部と関係の深い良性腫瘍として位置づけられている²⁾⁴⁾。三島および堀³⁾によれば、毛包漏斗部の腫瘍を、benign のものとして inverted follicular keratosis すなわち follicular poroma, epitheliomatous なものとして follicular poroepithelioma, および carcinomatous なものとして infundibular carcinoma を分類している。しかしながら、infundibular carcinoma に相当する症例の報告はなく、三島らの報告した68歳の男性の臀部に生じた infundibulo-trichilemmal carcinoma が、それに最も近い症例に相当するものと述べられている。

症例1および2はいずれも、その組織構築が follicular poroma と類似しており、とくに多数の squamous eddies および pigment blockade melanocytes が混在する点が特徴的と思われる。症例1は真皮内に異型細胞が浸潤しており、異型細胞には明らかに角化傾向の認められることから early invasive squamous cell carcinoma と診断される。症例2は浸潤に関しては症例1の前段階に相当するものではないかと考えられるが、いずれも基本的には follicular poroma の病理組織学的特徴を備えている点で、follicular poroma の悪性化例に相当する症例ではないかと思われた。

森岡⁴⁾は、前癌性毛包腫瘍として poroepithelioma folliculare の12例を示し、このうち5例は inverted follicular keratosis の、あとの7例は trichilemmoma の病理組織学的特徴をそれ

ぞれ備えていたと述べ、poroepithelioma folliculare をさらに分類すれば、1)より毛包漏斗部の腫瘍の性格のつよい inverted follicular keratosis 型と、2)本態的には trichilemmoma に近い型とに分けられるのではないかと論じている。従って、inverted follicular keratosis すなわち follicular poroma の病理組織学的特徴を備えながら、前癌性の性格をもつ毛包性腫瘍は確かに存在するといえる。樋口ら⁵⁾は、inverted follicular keratosis の病理組織学的特徴を備え細胞異型性の認められる72歳の男性例を報告し、malignant follicular poroma の存在の可能性を述べている。また、de Vries¹⁾は、follicular poroma の有棘細胞癌化例と思われる86歳の男性例を報告しており、このことから follicular poroma の病理組織学的特徴を備える腫瘍の中には、良性のものとして follicular poroma, 前癌性のものとして follicular poroepithelioma あるいは malignant follicular poroma が存在し、そして癌化例に相当するものとして follicular porocarcinoma の存在の可能性はありうと思われる。

症例1は明らかに真皮内へ異型細胞の浸潤が認められる点で follicular poroma の癌化例に相当する症例、そして症例2はその前段階に相当する症例として、これらはいずれも follicular porocarcinoma の存在の可能性を示唆する症例ではないかと考え、ここに報告した。

文 献

- 1) De Vries, N.C.T.: A carcinoma spinocellulare developed from a poroma folliculare. Dermatologica, 134: 386-391, 1967.
- 2) 上野賢一, 徳田安基, 鍋島謙五: 毛孔腫 poroma folliculare—特に近縁疾患との異同ないし関係について—, 皮膚臨床, 12: 819-844, 1970.
- 3) 三島豊, 堀啓一郎: 皮膚付属器腫瘍, 日皮会誌, 90: 1246-1261, 1980.
- 4) 森岡貞雄: 前癌性毛包腫瘍—poroepithelioma folliculare について—, 西日皮膚, 40: 419-428, 1978.
- 5) 樋口理恵, 今山修平, 占部治邦: Malignant follicular poroma の存在の可能性. Skin Cancer, 2: 14-16, 1987.